

平成 2 2 年度病害虫発生予報第 1 2 号

平成 2 3 年 3 月 1 日
愛 知 県

1 作物

ムギ類の赤かび病は、排水不良のほ場で発生が助長されるので、今のうちに排水溝の手入れなどを実施しましょう。

2 果樹

今後の気温は平年並と予想されていますが、近年は気温の変動が大きくなっているようです。果樹の生育ステージに留意して栽培管理や防除を心がけましょう。

モモせん孔細菌病は昨年秋の発生量が多かったため、第一次伝染源となる越冬菌量も多いと考えられます。ナシ黒星病およびブドウ晩腐病は、昨年の発生量が平年並だったので越冬菌量は平年並と予想されますが、前年発生が多かったほ場では発芽前の防除適期を逃さないように防除しましょう。

昨年、フジコナカイガラムシやマルカイガラムシ類の発生が多かったほ場では、越冬密度が高くなっていると予想されるので、発芽前にマシン油乳剤（95%）で防除しましょう。また、ナシの黒星病、モモの黒星病、縮葉病、胴枯病などの病害防除を兼ねる場合は石灰硫黄合剤で防除しましょう。

3 野菜（露地）

キャベツ菌核病が発生しているほ場があります。作物上に形成された菌核が次作以降の伝染源となるので、被害残さは集めて畑の外へ持ち出し、適切に処分しましょう。

早生品種のタマネギでは、べと病が発生しているほ場があります。本病は気温が高く降雨が続くと、増加します。発生を確認したら、直ちに薬剤で防除しましょう。また、本病の越年罹病株は伝染源となるので、見つけ次第除去しましょう。

4 野菜（施設）

果菜類の灰色かび病は増加傾向にあります。施設内の換気に努めるとともに、ローテーション防除を心がけましょう。今後曇雨天が続く場合は発生が多くなるので注意しましょう。

気温の上昇に伴いトマト黄化葉巻病を伝搬するタバココナジラミが増殖しやすくなります。タバココナジラミの防除を徹底し、トマト黄化葉巻病の発生を防ぎましょう。

ナスではミナミキイロアザミウマの発生がやや多い状況が続いています。今後発生が増加する時期なので、早めに防除しましょう。

イチゴにおけるハダニ類の発生量は多く、今後気温が上がると更に増加して防除が困難になるおそれがあります。薬剤の選定に当たっては、天敵、ミツバチ等への影響日数および使用回数に注意し、葉裏にもかかるように丁寧に散布しましょう。

5 花き

夏秋ギクの採穂の時期になります。白さび病の発病していない親株から穂を採り、感染が懸念される場合は薬剤散布を実施しましょう。

果樹

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ナシ	黒星病	平年並	全域	昨年秋期の発生量は平年並	±
モモ	せん孔細菌病	多い	全域	昨年の発生量は多い	+
ブドウ	黒とう病	やや少ない	全域	昨年の発生量はやや少ない	-

・ 防除対策

〔モモ・せん孔細菌病〕

春型枝病斑は見つけ次第切り取って除去しましょう。カスミンボルドーやICボルドー412などで開花直前に防除しましょう。

野菜

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
タマネギ	白色疫病	平年並	全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の降水量は平年並	± ±
	べと病	やや多い	全域	2月下旬の発生量はやや多い 3月の降水量は平年並	+ ±
トマト (施設)	疫病	平年並	全域	2月下旬現在、発生を確認していない(平年並)	±
	灰色かび病	少ない	全域	2月下旬の発生量は少ない 3月の日照時間は平年並	- ±
	葉かび病	少ない	全域	2月下旬の発生量は少ない 3月の日照時間は平年並	- ±
	ハモグリバエ類	平年並	全域	2月下旬の発生量は平年並	±
ナス (施設)	灰色かび病	平年並	全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間は平年並	± ±
	すすかび病	やや少ない	全域	2月下旬の発生量はやや少ない 3月の日照時間は平年並	- ±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ナス (施設)	ミナミキイロ アザミウマ	やや多い	全域	2月下旬の発生量はやや多い	+
キュウリ (施設)	べと病	平年並	全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間は平年並	± ±
	灰色かび病	やや多い	全域	2月下旬の発生量はやや多い 3月の日照時間は平年並	+ ±
	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	全域	2月下旬の発生量は平年並	±
イチゴ (施設)	灰色かび病	平年並	全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間は平年並	± ±
	ハダニ類	多い	全域	2月下旬の発生量が多い	+
	ミカンキイロ アザミウマ	平年並	全域	2月下旬の発生量はやや多い 粘着トラップによる誘殺数はやや少ない	+ -

・ 防除対策

〔タマネギ・べと病〕

発病のおそれが高いと見込まれるほ場では、ダコニール1000、フロンサイド水和剤などにより予防散布をしましょう。発生を確認したほ場では、カーゼートPZ水和剤、リドミルMZ水和剤、フェスティバルC水和剤など治療効果のある薬剤で防除しましょう。なお収穫を開始しているほ場もあるので、収穫前日数や飛散に十分注意し薬剤散布しましょう。

〔ナス(施設)・ミナミキイロアザミウマ〕

アフーム乳剤、コテツフロアブルなどで防除しましょう。

〔キュウリ(施設)・灰色かび病〕

換気などを行って、湿度の高い状態が続かないよう努めましょう。同一系統薬剤の連用を避け、ポトキラー水和剤、カンタスドライフロアブル、ベルコートフロアブルなどを防除体系に組み込み、ローテーション防除を心がけましょう。

〔イチゴ(施設)・ハダニ類〕

すでに天敵を放飼している場合は、天敵に影響の少ないダニサラバフロアブル、オサダン水和剤25などで防除しましょう。また天敵を利用しない場合、もしくは天敵の効果が得られない場合は、アフーム乳剤やコロマイト水和剤などで防除しましょう。

参考

東海地方の1か月予報(名古屋地方気象台2月25日発表)

予想される向こう1か月の天候

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の気温は平年並の確率40%、降水量は平年並の確率40%、日照時間は平年並確率40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。2週目は、低い確率が50%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率

〔気温〕 低い:30% 平年並:40% 高い:30%

〔降水量〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%
〔日照時間〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%

予想される天候の特徴

当地方の向こう1か月の天候は、天気は数日の周期で変わり、高気圧に覆われて平年と同様に晴れる日が多いでしょう。期間の前半は、冬型の気圧配置に成りやすく、寒気の影響を受ける時期がある見込みです。（2月26日～3月25日の晴れ日数の平年値は約19日）

「農薬使用者のみなさんへ」

飛散防止にこれまで以上に留意し、農薬の適正使用に努めましょう。

農薬使用前にはラベルの内容を確認しましょう。

農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも、洗いもれがないようにしましょう。

農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。

農薬の空容器は、ほ場などに放置せずに適切に処理しましょう。

農薬の使用状況を帳簿に記載しましょう。

ポジティブリスト制度・農薬ドリフト対策については、
<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/link.html> をご覧ください。